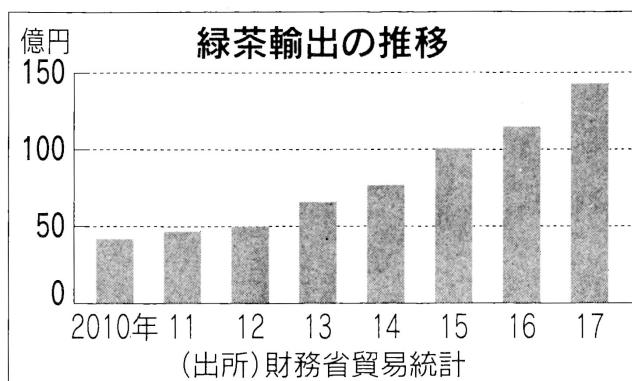


静岡県の特産品である茶の輸出が増えている。急増する海外需要に応える形で県内の茶商や農家も輸出に向けた取り組みを強化している。有機栽培や残留農薬基準などのハードルもあり、県の茶産業は量だけではなく質との戦いにも立ち向かう必要がある。

財務省が1月末に発表した貿易統計では2017年の緑茶輸出額が前年比24%増の143億円と過去最高を更新した。生産・流通とともに全国トップの静岡県はこの勢いをさらに加速させようとしている。

特に力を入れているのが海外で需要の高い抹茶や粉末茶など単価の高い商品だ。大手のハラダ製茶（島

## 増える茶の輸出



## 抹茶・粉末茶に力

世界的に茶の生産は高まっているが、最大の生産国は中国だ。国内でも鹿児島県が輸出向けの生産を拡大、それぞれ抹茶など高価な商品に目を向けている。ライバルに負けない茶の生産と輸出には質に加えて「静岡ブランドを構築する必要がある」（県お茶振興課）という。煎茶中心から抹茶への転換という戦いは今、まさに正念場を迎えている。

田市）は16年、米国や台湾向け輸出に特化した茶園を県内に開いた。杉本製茶（同）も輸出拡大に向け新たな大型投資に踏み出す。生産者も負けていない。茶の有機栽培を手掛ける葉つピイ向島園（藤枝市）は昨年、抹茶の原料となるて